

道徳だより



テーマ：ふりかえり、よりよい次につなげる（授業実践力向上講座）

令和5年9月
京都市立道徳教育研究会
広報部
（第5号のおまけ）

他のグループでご質問いただいたこと、アンケートに書いていただいていたことについて、お答えします。「ああ、そういうことか」「うちのクラスで行う時は…」と各校・各学級のご実践に生かしていただけたら嬉しいです。

（文責 西陣中央小 保本 貴之）



めあてを「正直、誠実」ではなく「明るい心を育てるために」にしたのはなぜですか？

この流れでは「明るい心を育てる」につながっているように感じないのですが…

私は、各教科を深く捉える際には、「学習指導要領 解説」をもとに、教材分析・授業作りに取り組むようにしています。解説のA-（2）「正直・誠実」には、「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること」をねらいとし、4年生では「正直・誠実」の諸価値を考えることを通して、「明るい心で生活すること」のよさや難しさを考えさせることが大切であると解釈しました。そのため今回は「人間の弱い一面が生じたり、目の当たりにしたりした際、それらを乗り越えようとすることが、真心をこめて生きること、明るく楽しい生活を心掛けようとすることにつながる」を踏まえた上で、今回のめあて、展開後段の発問となりました。また、前回の授業実践力向上講座で「どうにか、前向きな終わり方にできないか」というお声もあったため、チャレンジしました。さらに研究を深めていけたらと思います。

めあて、読みの視点を「明るい」に対して、「黒っぽい」としたのはどうしてですか。

上記の通り、「明るい心」は「解説」をもとに目指すものであり、その対は「暗い心」となります。しかし、「ズルをしちゃう」「分かっているけれどついやっちゃう」のは、「暗い心」というより、「黒っぽい」という方が、「つい魔が差してしまった」という心情が、児童にとってイメージしやすいと思い、そのようにしました。

児童が考えたり、話し合ったりする時間が短く感じました。あのやり方・流れでは、児童の意欲が下がったり、時間に追われたりするものになるのではありませんか？

その通りであったと思います。

ワークシートを使ったグループ交流、2項対立のペアトーク、ネームカードを用いた交流…45分の授業で1つ行うだけでも十分なものです。しかし、この講座は「授業実践力向上講座」であり、示範授業ではなく、模擬授業です。いろいろな方法を見て、「こういう方法もあるのか」「うちの学級ではこうしよう」と思って生かす、授業力を向上させることが目的だと思い、授業作りをしました。そのため、端的に言えば「詰め込んだ」授業となりました。

本来であれば、一番考えさせたい（深めたい）ところ、多面的・多角的に考えさせたいところ、ここ一番で行うものだと思います。話し合いの目的や意図（安心して表現できるため、共有するため、深めるため、しぼっていくため…等）を意識して、お取り組みいただけたらと思います。

本文に線を引かせながら、読ませながら…というのは、4年生の発達段階では難しいのではないかと思うのですが…。

そうだとも思いますし、そうでないとも、思います。というのも、積み重ねたり、慣れたりしていることはすぐ行えま
すし、そうでないことにはやはり時間も手間もかかると思うからです。「道徳読み」は、教材・資料に出会う際に「視点
をもたせる」ことをねらいとして行っているため、道徳に限らず、いろいろな教科で行っています。そのため、支援の必要
な児童も、最初は「？」と手間取ることもありました。やることが明確であるために、どの教科でも生き生きと組み
組み、学習内容の理解の手立てともなっていると感じます。

また、上記のようなグループ（ペア）ワークも、45分の学習で1～3回必ず入れ、気付きの共有、考えの整理、学び
のまとめ等、意図的（困りのある児童への支援、生徒指導の4機能、時短などの効率化等）・計画的に行っています。

各校、各学級の実態、発達段階にもよるとは思います。意図やねらい、何より「児童のよりよい学び」へのつながりを
検討し、いろいろに探ってもらえたらと思います。

最後（前段～後段）がふわっとしていて、児童が価値理解につながっていたのか
よく分かりません。

（ご自身の学級の児童のふりかえりでは、理解できていたと仰っていましたが…）

これも、その通りであったと思います。

本学級や、想定される児童の反応では、中心発問で出ている意見、「反省」「後悔」から、「正直に伝える（謝る）」が
多くなり、そのゆさぶりで、正直・誠実であることの大切さと難しさを考えられるものにしようとねらっていました。

そこで、模擬授業後に、もう一度、「正直に伝える」「伝えずに、これまで通り接する」、両方が出た際の整理のしかた
を検討したところ、次のようなものを試案しました。

「自分の中でモヤモヤする気持ちをすっきりさせたい、次から気をつければいいという気持ち、どちらにも共通する部分があります。
为什么呢？それは、「自分のこれから（生き方）につながっている」ということです。モヤモヤしないようにする生き方は…（略）、
やってしまったことを、モヤモヤしたまま、けれど次に生かし、つなげていく生き方は…（略）、その理由をみんなに聞いてみたけど、
どちらも黒っぽくない、よりよい自分、明るい心を育てようとする生き方ですね。では、正直に伝えるにしても、伝えず、次につなげ
るにしても、そうした「明るい心を育てる」ために大切なことって、どんなことでしょうか？」

以上のような着地点なら、「後悔しない選択」「自分がモヤモヤしない（すっきりする）」「他の人の気持ちや立場を考
える」、それら全てが「明るい心を育てる（「正直、誠実」であるために大切なこと）」と集約できるかと思ひます。本学
級児童に伝わる授業になっていたとは言え、模擬授業の際にここまで検討すべきでした。参考になれば幸いです。

◆めあてに「正直、誠実」という言葉を使わずに、価値に迫っていったところが、とても勉強になりました。

◆ネームカードをつかい、「次は誰（どの立場の人）の意見を聞きたい」とたずねることで、児童が主体的に、
意欲的に取り組めると思いました。

など、直接お声をかけてくださった方もおられました。至らないところも多々ありましたが、少しでもみなさんの
教材研究や授業作りにつなげてもらえたなら、嬉しいです。みなさん、各々の学級で、目の前の児童がよりよ
く成長する取組、手立て、実践例をお持ちだと思います。ぜひ、校内・研究会でお互いに共有し合い、児童のよ
りよい成長のために、よりよい授業を、より効率よく行っていけるようになればと思います。道徳
教育研究会は、育成部、低学年部、中学年部、高学年部で取り組みを進めています。興味をもたれ
た方はぜひ各部会のミーティングにご参加ください（活動予定等はこちらでご確認ください）→

